



様々な国境線

国境について、教科書『新しい社会 地理』(東京書籍)では、次のように説明しています。

国と国の境界のことを**国境**といいます。いろいろな国の国境線をたどると、おもに次の二つの決め方があることに気がつきます。

- (1) 山や川、湖、海などの自然物を利用した国境線
- (2) 緯線・経線などを利用した人工的な国境線

(1)の国境線を「**自然的国境**」、(2)の国境線を「**人為的国境**」といいます。

世界地図を見ると、国境線には曲線と直線があることに気が付きます。国境線の形状は、自然的に設けられた国境か、人為的に設けられた国境であるかによって変わります。

自然的国境 ~フランスとドイツの場合~



ヨーロッパでは、互いに国境を接する国々が、戦争を繰り返してきたという歴史があります。例えばフランスとドイツでは、戦争資源としての石炭と鉄鋼が対立の火種となっていました。ライン川岸に広がるフランスのアルザス・ロレーヌ地方は、元来ドイツ文化圏でしたが、鉱山資源に恵まれ、交通の要衝であることから、フランスはライン川までを領土とする自然的国境論を唱え、度々ドイツと戦争をしてきました。

人為的国境 ~アメリカ合衆国、アフリカ諸国の場合~

緯線・経線などを利用した人為的国境は、歴史的に見て新しい国に多く存在します。アメリカ合衆国の場合、カナダやメキシコとの国境が画定されたのは19世紀中頃です。また、人為的国境の多いアフリカ諸国が独立したのは20世紀後半のことです。



また、緯線・経線を利用した人為的国境は、アメリカ合衆国を例外として、多くの場合が欧米列強の植民地支配に由来するものであり、独立後に国境となったものです。しかし、国民の意思とは関係なく境界が決められたため、現在の民族紛争を引き起こす原因の一つになっています。

“未確定”の国境線 ~インド北部、サウジアラビア南部の場合~

世界地図には、国境が未確定のため、破線で記されていたり、途中で途切れていたりする地域があります。「破線」に代表されるのは、インド北部です。カシミールの領有権をめぐる印パの争いに起因するものです。「途切れ」に代表されるのは、サウジアラビアとイエメンの間の砂漠地帯です。砂漠に住む遊牧民が移動に支障をきたさないようにするために、サウジアラビア政府が国境を決めなかったのと、砂漠の油田開発をめぐる、両国の争いが起きたためです。サウジアラビア政府は、湾岸戦争を契機に地域の安定を重視して、1990年代に入ると周辺各国との国境線画定交渉を積極的に進めるようになりました。1991年のサウジアラビアの地図には、アラビア半島南部の国々との国境線が引かれていませんが、2003年の地図には、アラブ首長国連邦を除いて国境線が引かれています。この二つの地図を提示して、子どもたちにそれぞれの事由や背景について調べさせるのもおもしろいですね。未確定の国境線及び国境線の画定には、歴史や地域性が絡んでいます。